

日本脂質栄養学会

サテライトシンポジウム

脳機能・行動・神経症に影響を与える脂質栄養

“食べ物によって血液成分が変わっても脳成分は変わらない、だから脳の働きも変わらない“、というのが常識でした。ところが油脂の中の二種類の必須脂肪酸は、脳に入って脳の組成を変えます。そして、食べ物が偏ると脳の働きも変わるのです。

過去半世紀の間違った油脂の選び方が、いま増えつつある“切れやすい行動やうつ病”などの一因となっていることがわかってきました。そして認知障害にも、脂質栄養が重要であることが明らかにされつつあるのです。この分野になじみの少なかった方や専門家も含めてご参加いただければ幸いです。

日時：平成20年9月7日(日)10:00～16:00

共催：「脂質栄養」オープン・リサーチ・センター(金城学院大学消費生活科学研究所)、日本脂質栄養学会

会場：大阪国際会議場(12F) (大阪市北区中之島5-3-51)

入場無料、予約不要

【プログラム】(座長：小林哲幸、奥山治美)

1. 脳を襲う油ー基礎研究から(10:10-10:50)
金城学院大学特任教授、「脂質栄養」オープン・リサーチ・センター長 奥山治美
2. α -リノレン酸欠乏による行動変化動物実験から(10:50-11:30)
麻布大学生命・環境科学部教授 守口 徹
3. 統合失調症と脂肪酸代謝遺伝子との関連について(11:30-12:10)
理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー 吉川武男
4. 脂質と精神 (13:00-13:40)
富山大学和漢医薬学総合研究所教授、日本脂質栄養学会理事長 浜崎智仁
5. ドコサヘキサエン酸(DHA)と脳機能ー基礎研究から臨床応用に向けて(13:40-14:20)
島根大学医学部准教授 橋本道男
6. アルツハイマー病と脂質栄養(14:20-15:00)
自治医科大学附属さいたま医療センター循環器病研究所長・教授 植木 彰

【連絡先】

「脂質栄養」オープン・リサーチ・センター事務局 電話 052-798-0180(代)